

さざめく波に浮かぶ島々、人と人をつなぐ大きな橋、空から照らす太陽や月。ホテルグランヴィア岡山(岡山市北区駅元町)の2階通路に飾られた備前焼のレリーフ「宴」。

縦2・9m、横4・2mの大作で、備前焼で4人目の人間国宝(重要無形文化財保持者)となった故藤原雄氏が手掛けた。

同ホテルの前身・岡山ターミナルホテルに同氏のレリーフがあった縁で、1995年のリニューアルオープンに合わせて制作を依頼したという。波間はでこぼことしたれんがのような無数の立方体で表現。背景を構成する多彩な色柄の陶板は多様な人々やその暮らしを示すかのよう。広報

ホテルグランヴィア岡山 藤原雄氏の備前焼レリーフ 島や橋…“宴”表した大作

倉敷国際ホテル 船木伸児氏の陶板 大原家との交流縁に展示

つばめガス倉敷支社 中川一政氏の油彩 ヒマワリに会社成長重ね

を担当する営業企画課 遠く遠く 静かに幕の金本祐佳主任は「備前焼を閉じていく」

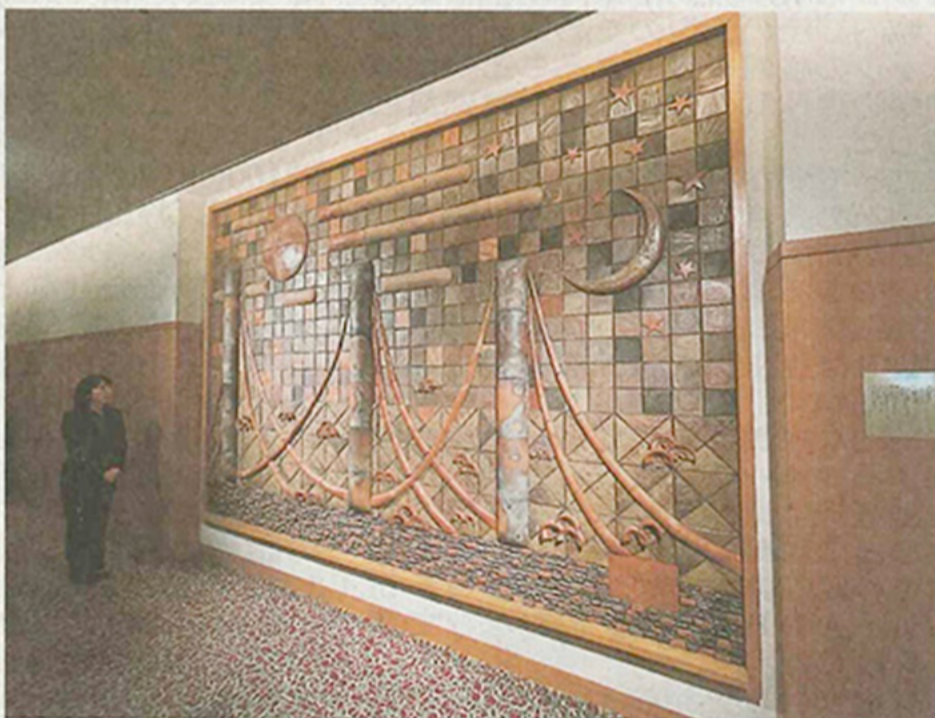
前焼は岡山を代表する伝統工芸。茶器やつぼとほはまた違った魅力を感じてもらえたら」と話す。

協の銘文にはこうある。

〈人が集い 物や感動が重なり この地で宴がはじまる〉〈宴は人々に限らない夢と希望を与え 宴はどよめきそして いつしか

倉敷国際ホテル(倉敷市中央)には、ホテルの創業に関わった大原家とゆかりのある作家の作品がある。

島根・布志名焼の窯元「船木窯」(松江市)6代目、船木伸児氏の



故藤原雄氏が手掛けた備前焼のレリーフ「宴」
ホテルグランヴィア岡山

陶板「海のいきものたち」。「陸のいきものたち」。2019年に行った耐震化などの大規模改修に合わせてオーダーした。2、3階に並ぶ計10点はヒトデやミミズクなど海と陸の生物がそれぞれ5点ずつ落ち着きのある茶色を中心とした色使いで表されている。

船木家は大原家と長年にわたって交流。倉敷絹織(クラレ)を発売させ、大原美術館も創設した故大原孫三郎氏が1931年に山陰を旅行した際、伸児氏の祖父である故道忠氏の作品を見て気に入った。花瓶に生けられた3輪のヒマワリが満開、つぼみ、しおれ始めとそれぞれ異なる表情を見せて、黄色い花びらと真っ赤な背景との対比の美しさが見る人を魅了している。

黄色と赤色は同社の企業カラー。ヒマワリの生命力に会社成長のエネルギーを感じたため、2019年夏に購入した。ほかに社内には版画や彫刻といった数点の芸術作



船木伸児氏の陶板作品「海のいきものたち」=倉敷国際ホテル

(20号)を置くのは、プロパンガス販売などのつばめガス(岡山市南区福田)。花瓶に生けられた3輪のヒマワリが満開、つぼみ、しおれ始めとそれぞれ異なる表情を見せて、黄色い花びらと真っ赤な背景との対比の美しさが見る人を魅了している。

黄色と赤色は同社の企業カラー。ヒマワリの生命力に会社成長のエネルギーを感じたため、2019年夏に購入した。ほかに社内には版画や彫刻といった数点の芸術作

倉敷支社(倉敷市中島)シヨールームに文化勲章受章者の洋画家・故中川一政氏が手掛けた油彩「向日葵」

地場企業の社屋を彩るアート作品。社屋の落成記念などで飾られ、来客を楽しませるだけでなく、社員の感性も豊かにしている。記者が取材先で見聞きした作品と、展示にまつわるエピソード

はらわた
自由帳